

有日逾中澣之句致其日乃十月二十一日又撰四月十八日丁亥本命道場朱表亦云日近中休然則每月之二十日爲中澣日上澣必月之十日矣一旬之中止一澣日今人以上澣中澣下澣當上旬中旬下旬既失其旨又休澣惟有官人乃可用之不當通於士庶也略○下

〔眞曆考〕一月を三つにきざみてついたりもちつごもりといへりそはまづ西の方の空に日の入ぬるあとに月のほのかに見えそむる比を始としてそれより十日ばかりがほどかけて月立といへり月のやう／＼に立ゆくほどなればなり

月立はついたり朔の始を定むること日次にはかゝはらず今の二日の日にまれ三日の日にまれ昏に月の見えそむる日を始とせり曆に朔とする日はいまだ月見えざればなほ晦の末なりから國にては合朔といひて月と日とまさしく一方に會ていさゝかも月の光の見えざる日を朔とはすめれど皇國の古は然らずついたりとは月立の意にて月のそらに立て見ゆるをいふなり立とは空に見ゆるをいふ霞霧などの立は下より立のぼるをいふをこれは西の方へ下るころなれば立といふ意たがへるに似たれども昨日まで見えざりしが初めてみゆるは立のぼるに同じさてやう／＼に昏に高く見えゆくころをかけてひろく月立といへり倭健命の美夜受比賣のおすひのすそに月水のつきたるを見そなはして月立にけりとよませ給へるも天の月の立によせて月とはのたまへるなり月立といふ事これにて心得べしさて春の立秋のたつなどいふはから國にはゆる立春立秋より出たる言か又はこの月の立よりうつれるかわきまへがたし萬葉集に正月たつとよめるは月のたつをいへるなり又今の世の言に月日のたつといふは過行ことにてこは今月の立を先の月の過たる方へうつしていう言なり

さて中ごろ十日ばかりがほどをもちといへり月の形の満たればなりその中に月立の初より